

第2期ぐんま循環器病対策シームレス・プロジェクト
(第2期群馬県循環器病対策推進計画)(案)に対する意見及びその回答等について

No.	項目	意見等の概要	回答・対応
1	循環器病に係る医療提供体制の構築	<p>群馬県内の医療施設従事医師の平均年齢が高く将来に向け若い医療従事者の確保の予定や計画はあるのでしょうか。 特に、脳神経外科、循環器内科は、ベテランの方の引退後が不安です。 群馬県北部は、人口減少に伴い過疎化が進んでいる。 老夫婦世帯、独居老人世帯が増え医療機関も減少し、地域での医療支援サービスが今後衰退して行く事が考えられます。 県としてはどのように対応して行く予定でしょうか。</p>	<p>群馬大学等の関係機関とも連携し、群馬大学医学部地域医療枠の設置や各種修学資金の貸与、知事と若手医師等との意見交換を踏まえた施策の実施など、若手医師の確保に向けて取り組んでいるところです。 なお、群馬大学医学部地域医療枠については、平成30年度以降の入学生から、県北部の地域を含む医師不足地域の医療機関や医師不足診療科で一定期間勤務することを要件としたことから、今後、こうした地域や診療科で勤務する医師が増加することが見込まれています。 また、限られた医療資源を有効に活用するため、複数の二次保健医療圏の関係機関が連携して、広域的かつ柔軟に医療需要に対応できる医療連携体制の構築を図っているところです。 引き続き、関係機関と連携しながら医師確保対策や医療連携体制の構築について必要な対応を進めてまいります。</p>
2	循環器病に関する適切な情報提供・相談支援	<p>小児慢性、先天性心疾患の症状はまちまちで、県内で治療が受けられない患者も多く、県外の医療施設に入院や通院を行っている。 症状により、より専門性の高い医療施設での治療が必要となっている。群馬県内だけの情報提供だけでなく、北関東や東京近郊の医療機関との連携も含め検討してもらいたい。 また、病気の子どもの子育て支援や病気の子どもの兄弟の支援相談も検討して頂きたい。</p>	<p>小児慢性特定疾病児童や先天性心疾患患者等が必要な医療を受けられるよう、必要な対応を検討してまいります。 また、各保健福祉事務所では、小児慢性特定疾病児童等とその家族を対象に、療養相談や交流会等を行っているとともに、群馬県医療的ケア児等支援センターにおいて医療的ケア児等とその家族、関係者に対する相談支援等を実施しているところです。</p>

No.	項目	意見等の概要	回答・対応
3	治療と仕事の両立支援・就労支援	群馬県として就労支援の一環として、障害者の雇用状況の他、雇用支援制度や地域の関係機関を横断的に紹介する分かりやすい啓発用ハンドブックを作成したらどうでしょう。	障害のある方の雇用に係る情報については、事業者向けに県で作成した「障害者雇用の手引き」や群馬労働局のホームページで必要な情報を提供するとともに、各支援機関の連携により、採用前から採用の後も継続して企業や障害のある方に対する支援を実施しているところです。 また、難病患者に対し、群馬県難病支援相談センターでは治療と仕事の両立を支援するため、当事者と支援者に向けて、必要な情報が掲載されたサイト・ツールを紹介しているほか、群馬労働局では、難病患者就職サポーターを配置し、就労相談を実施しています。 引き続き、関係機関と連携しながら必要な対応を検討してまいります。
4	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策	先天性心疾患と言うと小児科の病気と思われませんが、現在では、青年期を迎えた病者の方が増えています。 小児科の治療から一般の病院へ移行するのにあたり、見識のある医療従事者が少ないため、成人になって診てもらえる医療機関を探すのは大変です。 風邪をひき一般の町医に診てもらう時に、今までの他の患者と違い、血圧や脈拍、心音等が違うため、診察に手間取り、場合により診察を断られる場合もあります。 群馬県では、移行期支援センターの開設を計画していますが、早期の開設及びそれに伴う医療従事者の養成、町医も含めた医療体制の構築及び、支援体制をお願いします。	県立小児医療センターの移行期支援外来や県立心臓血管センター等の成人先天性疾患外来等による患者の受入れや、小児循環器病の研究会などによる情報提供等が行われ、移行期医療体制の整備が進められているところです。 引き続き、移行期医療支援センターを含め、移行期医療体制のあり方について研究した上で、関係機関と連携しながら必要な対応を検討してまいります。
5	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策	【胎児診断率の向上】 妊婦向けに新生児の循環器病対策として胎児心臓病スクリーニングの向上をお願いします。 先天性心疾患患者等の予後改善には、重症心疾患の胎児診断率の向上が重要とされます。 重症先天性心疾患は現在でも新生児、乳児期の主要な死亡原因のひとつですが、出生後に計画的に治療をすることで予後を改善できることが分かっていますので早めの発見早期治療につなげてください。	関係機関の診療・検査体制や地域の小児・周産期医療体制の確保等の御尽力により、新生児や乳幼児の死亡率は低い水準が維持されています。 引き続き、関係機関と連携しながら小児・周産期医療体制の充実を図ってまいります。

No.	項目	意見等の概要	回答・対応
6	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策	<p>【学校教育の循環器病対策について】</p> <p>先天性心疾患等で運動制限や生活管理が必要な児童・生徒については、学校生活管理指導表等を作成し、小・中・高で連携して管理する体制が整備されていますが、一部学校では、先天性心疾患患者の理解が乏しく、学校行事の参加や修学旅行等における保護者の同伴を要望され、行事自体に参加しないように仕向けられるケースもありました。教育関係者への理解をお願いします。</p> <p>また、学校教育において、不健康な生活習慣に起因する循環器病を含む生活習慣病の予防に努めるよう、正しい知識を身に付け、児童・生徒の行動変容を目的とした健康教育が必要と思います。</p>	<p>先天性心疾患等を有する児童生徒が安全かつ充実した学校生活を送ることができるよう、学校生活管理指導表や関係団体等が発行するガイドライン等に基づき、児童生徒やその保護者、主治医、学校医、学校関係者が連携し、現場の実情等を踏まえながら、必要な対応を行っているところです。引き続き、学校関係者等の関係機関と連携しながら必要な対応を検討してまいります。</p> <p>また、小児期・若年期から健康的な生活習慣が定着するよう、学校教育の場において、引き続き、普及啓発を推進するほか、医療機関等による個人に応じた対応を行うなど、生活習慣病を予防する指導體制の充実を図ってまいります。</p>
7	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策	<p>【成人先天性心疾患診療体制の構築】</p> <p>現在成人先天性心疾患専門医は、全国で191名、群馬県では1名しかおらず、連携訓練施設として、群馬県立心臓血管センター、群馬大学医学部付属病院の2施設があるので、専門医の養成をお願いします。</p>	<p>成人先天性心疾患の診療には高度な専門性が求められ、医師確保における大きな課題だと認識しています。</p> <p>今後、関係機関と連携しながら必要な対応を検討してまいります。</p>
8	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策	<p>【県外の病院への通院・入院時の支援】</p> <p>先天性心疾患患者の中には、症例が極めて少ない病気を負った子供もいます。県内の病院では対応が出来ず、東京や他県の病院で診療事例のある病院へ通院や入院している子供もおり、患者家族の負担も多く、大変です。お見舞金や交通費の援助をしてくれる市町村もあるが、対応はまちまちです。</p> <p>県として通院時の交通費支援等の支援を予算化できると幸いです。</p>	<p>難病患者見舞金等の各種助成については、市町村がそれぞれの政策判断に基づいて行っているものです。</p> <p>その上で、県としての支援の役割は、医療費助成と療養生活の質の維持・向上が基本であり、引き続き、市町村や関係機関と役割分担・連携しながら支援を行ってまいります。</p>
9	ぐんま元気の5か条	<p>健康寿命の延伸が重要。ぐんま元気の5か条は免疫力を高める要素が入っており、もっと大々的にPRする必要あり。</p>	<p>「ぐんま元気(GENKI)の5か条」は、全ての県民が、生涯にわたり、元気にいきいきと幸せな生活を送ることができるよう、県民に取り組んでほしい健康づくりの実践事項を定めました。引き続き、健康増進普及月間や各種研修会、啓発イベント、SNS等、様々な機会を捉えて啓発してまいります。</p>

No.	項目	意見等の概要	回答・対応
10	予防する健診の普及	特定健康診査、特定保健指導の受診率が全国平均を下回っている。より受診率を高めるため、無料にしてPRすべき。	県民に特定健康診査・特定保健指導を受診することの重要性等を更に周知するなど、引き続き、各保険者等と連携して受診率向上に努めてまいります。
11	搬送体制の構築	ドクターヘリをフル活用。脳卒中、心臓病は一刻を争う場面が多いので、他県と連携しながら強化すべき。	群馬県ドクターヘリは、栃木県、埼玉県、新潟県など他県と連携して運航しているところです。今後もこうした連携を図ることにより、循環器病をはじめとした救急医療体制強化に努めてまいります。